



学校の窓から

令和2年8月7日号

感謝と感動の1学期

新年度3日目から2カ月に及ぶ臨時休業、学習課題の受け渡し、短時間の登校日、分散登校、そして6月から学校再開と、学校にとって初めてのことばかりでした。この間「新しい生活様式」として社会の在り方が大きく変化する中で、学校としては常に「子どもたちにとってどうすることがいいのだろうか」と考え、判断してきました。

その一つに、保護者の皆様にボランティアのご協力をお願いしたところ、快く引き受けていただきました。学年単位で行っていただいている消毒作業には、これまでのべ165名の方々にご協力いただきました。専門部単位で行っていただいているトイレ・水道周りの清掃には、のべ102名の方々にご協力いただきました。水泳学習にも毎回数名の方々にご協力いただきました。おかげで私たち教職員は本来の業務に専念することができました。防犯パトロール隊の方々には、雨の日も暑い日も子どもたちの登下校を見守っていただきました。教師が笑顔で子どもの前に立つことができるのは、学校を支えている多くの方々のおかげであることを改めて実感しました。心より感謝申し上げます。

子どもたちにとっては制約の多い環境でしたが、心豊かに成長する機会にもなりました。学級を二つに分けた分散登校中に、会えない友達に向けて黒板にメッセージを書いている学級がありました。学校再開後は「新しい生活様式」を誠実に実行しようとする姿がありました。運動を促すために行った全校生ダンスでは、はつらつとした笑顔で体を動かしていました。学級を回ってみると、学級の歌やシンボルマークが掲示してある学級が多くありました。こういうときだからこそ、子ども同士の絆を深めようとする担任の心遣いが伝わってきました。最近では、ボランティア・企画委員会の発案で、九州豪雨被災者におくる募金活動を行いました。委員が3日間各学級を回って協力を呼び掛けたところ、58,244円の募金が集まりました。貯めていた1円玉を袋いっぱいに入れて募金した子や、湯気が出そうなくらい握りしめてきた50円玉を募金する子もいました。こうした子どもたちの姿に感動することが、私たち教職員のパワーになったような気がします。

2学期も難しい状況が続くかと思いますが、みんなと力を合わせて乗り越えていきたいと思いますので、引き続きよろしく願いいたします。

夏休み中、メディア接触に要注意

臨時休業中の教訓の一つが、メディア接触の時間が増えたことによる弊害です。特にオンラインゲームは、子どもたちの生活習慣だけでなく人間関係にも深刻な影響を及ぼしていることが分かってきました。「フォートナイト」を例に、子どもへの弊害を整理すると、次の点があげられます。

- グループを作ってプレイするので「友達がやっているから自分も」「夜10時にやる約束をしたから」「途中でやめるわけにはいかない」という状況になり、ゲームをする時間が長くなる。
- ゲーム相手の動きが分かるので、家庭での約束よりも友達の動きを優先するようになる。
- ゲーム中の言葉でのやりとりが、現実の人間関係にも影響を及ぼすことがある。
- ネット上でゲーム相手とつながることができる。その相手はどんな人か分からない。
- 課金することによりゲームが効果的に進められるシステムになっている。それがエスカレートすると、どうしてもお金が欲しくなる。

人間関係づくりの学習の途上にある子どもが、こうした弊害にさらされることになるのです。他のゲームやSNS、ネットに接する場合でも、仮想と現実の区別が難しい子どもならではの「怖さ」があります。この「怖さ」から子どもを守るにはルールとフィルタリングしか手段はありません。これができるのは保護者だけです。夏休みの初めに、お子様と話し合ってしっかりと対応してください。

学校閉庁時の連絡先

8月12日(水)～14日(金)は学校閉庁となります。交通事故や入院するような病気、新型コロナウイルス感染・濃厚接触者になった場合等は、学校としても共に解決に当たりますので、次の順序で連絡をお願いします。

- ① 氏家教頭(090-1373-8920)
- ② 野木校長(090-1934-2880)